

# 令和5年度第2回北薩地区 小・中・義務教育学校教頭研修会

令和5年9月20日(水)

1 趣旨	県及び地区教育行政の重点施策並びに努力事項等について理解を深めるとともに、教頭という立場から、責任を果たす学校づくりにおける課題と解決策を確認し、学校教育の充実に資する。	
2 会場	風テラスあくね (阿久根市)	
3 出席者	各小・中・義務教育学校教頭 92人 (うち2人欠席) 各市町教育委員会教育長, 学校教育課長, 指導主事 等	
4 内容	(1) 開会の挨拶及び所長講話 所長 (2) 総務課説明 総務課長 (3) 管理課説明 管理課長 (4) 指導課説明Ⅰ 指導課各指導主事 <昼食・休憩> (5) 指導課説明Ⅱ 指導課各指導主事 (6) 研究協議説明 指導課主任指導主事	(7) 研究協議『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善に向けた取組を活性化するためには～組織的な授業改善を図るための教頭の役割～ (8) まとめと指導 指導課長 (9) 講演 鹿児島県総合教育センター教職研修課長 「学校をチームに！教頭のマネジメント ～ファシリテーションを中心に～」 (10) 閉会の挨拶 阿久根市教育委員会教育長

## 5 様子

### 研究協議「授業改善」



### 講演



### 閉会の挨拶



【授業改善】戦略イメージ

【研究協議のテーマ】  
『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善に向けた取組を活性化するためには～組織的な授業改善を図るための教頭の役割～

【研究協議のねらい】  
授業改善の推進において、授業者（プレーヤー）ではなく、組織のマネジメントを行う者（マネージャー）としての教頭の役割の重要性に気づき、明日からの取組をイメージすることができる。

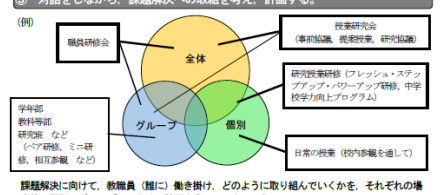
① 課題に気づく。 ② 課題に気づく」を軸とし、問題意識を共有し、当日60分研修してください。

学校教育目標	人の心を思いやり、自ら学び、心も体もたくましく子供を育てる
目指す授業像	ガイド役を中心に、児童の学び合いが充実し、児童主体となっている授業
「授業改善」の現状と課題	<p>問1～問3は、あなたの学校について、理由は、あなた（教頭）の取組について、当てはまる番号を1つずつ決め、回答した理由を記入してください。</p> <p>問1 授業改善のビジョンが、職員間で共有されている。</p> <p>問2 授業改善の取組は、進んでいる。</p> <p>問3 授業改善の校内研修は、活性化（教員一人一人の主体的・対話的で深い学びが実現）している。</p> <p>問4 教員一人一人への授業改善に関する個別の指導は、充実している。</p>

教頭として、授業改善に向けた取組の活性化において課題と感じていることは、何ですか。校内研修の充実を図るための授業改善が課題である。特に、授業力に関して、「個人差」が見られることや、「しゃべりすぎ」による一方的な知識の授受の授業スタイルからの脱却、「年齢構成」が幅広いことなどが要因である。これらを克服するために、年度当初から計画的に「全体」と「個人」に対する指導助言を教頭が行うことが重要であると感じる。

② 対話をしながら、課題を見つめる。

③ 対話をしながら、課題解決への取組を考え、計画する。



## 6 感想・意見

研修会の内容について（満足 69%、概ね満足 21%、やや不満 0%、不満 0%）

- 所長講話にあったように、週末を有意義に過ごすためにも、平日にもっと頑張りたい。
- 講演では、教頭のマネジメント力を高めることがいかに大切か、を学ばせていただいた。「学校をチームに」を目指し、全ての職員が「ウェルビーイング」な状態になれるよう、十四の心を持った「聴く」力を身に付け、「話し合いは耳を傾け承認し任せてやらねば人は育たず、やっている姿を感謝で見守って信頼せねば人は実らず」の言葉を忘れず努力していきたいと思う。
- 授業改善について校内で十分に共通理解、共通実践ができていないと感じていたので今後の教頭としてどのように取り組めばよいか考えることができた。最後に 80 字でリフレクションするのは今後の取組を言語化でき実践に繋ぎやすいと感じた。校内研修でも取り組みたいと思った。
- 何事も教頭発信ではなく、人材育成の観点からも係からの発信ができるように、ミドルティーチャーの育成や分掌の機能化も図っていききたい。